

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。



②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。



③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等



④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



..... 予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX **(075)311-9862(専用)**

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)

平 日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)

土曜日/8:30~12:00

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

※令和3年10月現在、呼吸器内科は受付を中止しております。

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。



②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **(075)311-6361**



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科



③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

京都市立病院

連携だより

vol.42

令和3年10月

- 「産婦人科」のご紹介
- 「放射線治療科」のご紹介
- 「薬剤科」のご紹介
- 診療検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、
地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、
全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

女性の全生涯に渡るケアを提供します

「産婦人科」のご紹介



産婦人科 部長

藤原 葉一郎

はじめに

当科では、各種の産婦人科ガイドラインに基づいて、女性のすべてのライフステージ（新生児期、幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期）における疾患を受け入れ、診療に当たっています。産科救急である母体搬送も含めた、産婦人科救急も24時間体制で受け入れ可能です。

病院の地域連携室からご予約いただき外来で診察させていただくのが基本ですが、患者さんの相談等については、病院代表にお電話いただき、直接部長の藤原にお尋ねいただいても全く構いません。

診療スタッフ

日本産婦人科学会専門医が6名（うち指導医が5名）、日本周産期・新生児医学会周産期専門医が5名（うち指導医が3名）、日本婦人科腫瘍専門医・指導医が1名、日本女性医学会暫定指導医が1名、臨床遺伝専門医が1名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医が1名、日本性感染症学会認定が1名、ICDインフェクションコントロールドクターが1名、日本医師会認定健康スポーツ医が1名、日本医師会認定産業医が1名おり、責任をもって診療に当たります。

診療の概要

●女性ヘルスケア

新生児期、幼児期、思春期における、外陰・膣などの女性性器の先天性奇形（生殖管閉鎖症など）に対する手術や、ターナー症候群やアンドロゲン不応症などの染色体の変化に伴った原発性無月経などのホ

ルモン異常、摂食障害を含む心身症や女性アスリートに対するヘルスケアに対応します。

性成熟期における子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣良性腫瘍などに対して、ホルモン薬物療法、侵襲性の少ない鏡視下手術を提供しています。早発卵巣不全などのホルモン異常、月経困難症、月経前緊張症などに対してホルモン薬物療法を行っており、さらに性感染症やPID骨盤内炎症性疾患などの女性性器感染症に対しても、各種抗菌薬の適切な使用に基づき、外科的介入も含めて対応しています。

更年期、老年期における各種の身体症状や精神神経症状、骨粗しょう症、高脂血症、心血管疾患に対してホルモン補充療法を含めた薬物療法、漢方療法を提供しており、また骨盤臓器脱症状や下部尿路機能障害などにも対応しています。

●婦人科悪性腫瘍

外陰がん、膣がん、子宮頸がん、子宮内膜がん、卵巣がんなどの婦人科悪性疾患（絨毛性疾患も含めて）に対して、化学療法、放射線療法、手術療法を集学的に組み合わせて治療に当たっています。部長の藤原と医長の坪内は、2019年から当院で新たに設立された遺伝診療部の部長、医員も兼ねており、近年話題になっている、がんの遺伝子変異に基づいた、より治療効果のある薬剤の選択を目的としたがんゲノム医療も行っており、保険適応にもなったがん遺伝子パネル検査を行って、悪性腫瘍治療に当たっています。またがん体細胞遺伝子変異に加えて、生殖細胞系列の遺伝子変異の検査、子宮内膜癌などに対するマイクロサテライト不安定性MSI検査、リンチ症候群の原因遺伝子変異の検索、遺伝子相同組み換え修復欠損HRD検査、遺伝性乳がん卵巣がんHBOCの原因遺伝子であるBRCA1/2

遺伝子変異の検査も積極的に行っており、これらの結果に基づいて、分子標的薬であるPARP阻害剤リムパーザ、免疫チェックポイント阻害剤キイトルーダなどによるがん免疫療法も行っています。もちろん、生殖細胞系列の遺伝子変異に起因した遺伝性腫瘍の、血縁者への影響や、次世代での発症などについても、遺伝カウンセリングを含めたきめ細かな対応をしています。

●周産期・母性衛生

京都の地域周産期母子医療センターとして、各種合併症妊娠、分娩、産褥期の医学的管理のみならず、社会的ハイリスク症例に対する保健指導などの面からも対応しています。また情報共有目的も兼ねて、小児科を含めた各科医師、助産師、専門看護師、薬剤師、栄養管理士、地域連携室職員、相談支援室職員など交えて、月に1回の周産期カンファレンスを開催して、より患者さんに寄り添った各症例ごとの周産期管理についてディスカッションを行っています。また妊婦さん自身の啓発のためにも「母親学級」を開催し（現在はコロナ禍のために個別対応になっていますが）、妊娠中の不安などに迅速に対応できるように「助産師外来」を行っています。

もちろん周産期救急対応として、緊急母体搬送、産褥搬送も積極的に受け入れ、産褥期の異常出血に対するインターベンショナルラジオロジーIVRによる動脈塞栓術も放射線科と協力して施行しています（動脈塞栓術は、婦人科良性疾患や悪性腫瘍における緊急異常出血にも対応しており非常に重宝しています）。



また近年増加傾向にある出生前診断についても、通常の超音波断層検査に加えて、母体血清マーカー検査であるクアトロテストや羊水染色体検査を行っており、今年度内には無侵襲的出生前遺伝学的検査NIPTの開始も準備中です。

診療実績

昨年度（2020年）の外來累計患者は12,840名、入院のべ患者数は5,352名でした。手術件数は、帝王切開術を除いて230例で、このうち婦人科悪性腫瘍に対するものが108例でした。総分娩数が178例で、帝王切開による分娩が71例、母体搬送の受け入れが18例でした。昨年度は、コロナ禍の影響で、入院患者数、分娩数、母体搬送数が激減しましたが、今年度はやや持ち直しています。一方で、当院は新型コロナウイルスの患者さんの入院受入数（2021年9月末現在、518名）は府内医療機関でトップ水準であり、産婦人科でも現在まで13名の新型コロナウイルス合併妊婦の管理をしてきました。



今後も、市民の方々、地域の医療機関の先生方に信頼される産婦人科を目指して精進していく所存ですので、宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

症例の、ご相談等につきましては、どうぞお気軽にご連絡してください。

「放射線治療科」のご紹介

放射線治療科 部長

大津 修二



放射線治療科では2012年秋に複数の常勤放射線治療専門医による診療体制を整え、北館への移転を経て2013年夏には外照射用の加速器(リニアック)を2台に増やし、診療内容を大きく刷新しました。その際に「連携だより」でも診療内容を紹介させていただいています。その後は診療装置そのものの更新は行っていないのですが、いくつか新たな取組も進めてきましたので、ここで紹介させていただきます。

● 時間外照射の取組

「がん」が一般的な疾患になってきたことにより、がんを治すだけでなくがん患者の生活をいかに支えるかが課題となってきました。放射線治療は一定期間連日の照射が必要となるため、働き盛りの世代では仕事との両立が課題となってきます。当科ではがん患者さんの就労支援対策として、2015年より夕方の時間外照射を行ってきました。これは京都市内では先駆的な取り組みであり、現在でもごく一部の施設で行われているにすぎません。診療キャパシティの問題もあり、すべての患者さんのご希望にこたえることはできていないのですが、紹介先選定の際にご一考いただければと存じます。



● リニアックの改修

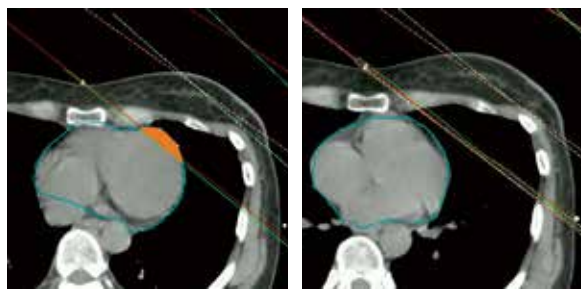
当院の2台のリニアックはもともと同じ機種(エレクトラ社シナジー)なのですが、2018年に大規模な改修を行い、2台のスペックを均一に揃えました。多くの施設では複数のリニアックを設置する際に汎用機と高精度治療の専用機の組み合わせとしています。専用機は痒いところに手が届いて確かに便利なのですが、守備範囲が狭くなりがちです。また、今日の高度化した放射線治療計画はリニアックごとのビームデータに合わせて作成されており、別の機械で照射するには治療計画をやり直す必要があります。当院では2台のリニアックのビームデータを揃えることで、サーバー上の一つの治療計画を用いてどちらの機械でも照射が出来る体制としました。これにより予定された点検や突発的な故障の際にも継続して照射が行えるようになり、照射期間の延長(これは治療成績の低下に直結します)を最低限としています。



● 左乳がんの息止め照射

乳がんの放射線治療に際し、心臓の被ばく線量が増えれば心臓疾患の発症リスクが増えることは以前から知られています。深呼吸での息止め照射を行うことで心臓と胸壁の距離が離れ、心臓の被ばくを減らすことができることから、当院では10年ほど前からこの息止め照射に取り組んできました。

2018年の診療報酬改定で息止め照射が保険収載されたことを契機に、体側マーカによる照合からより精密な腹壁信号による照合法に改め、呼吸管理の精度を高めています。

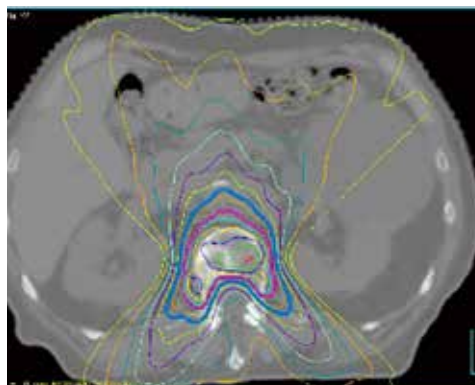


自由呼吸時

深呼吸息止め時

● 定位照射の適応拡大

定位照射、いわゆる「ピンポイント照射」は肺腫瘍や脳腫瘍では一般的な手法で、通常の分割照射に比べ少ない回数で大きな成果を上げられる治療法です。従来、複数個の腫瘍に照射する際には腫瘍一つ一つについて位置照合を行い多方向からの照射を繰り返していたのですが、近年VMAT（強度変調回転照射、回転照射によるIMRT）のテクニックを用いて複数病変を一度に照射する手法が確立され、より短時間で必要な照射が行えるようになってきました。当院でも症例を選びつつではありますが脳転移で複数病変の一括照射に取り組んでいます。



脊椎転移の
定位照射

また、2020年の診療報酬改定で新たに脾癌、転移性脊椎腫瘍、5個以下のオリゴ転移が定位照射の適応に追加されました。これを受けて当科でも脊椎転移への定位照射を開始しています。治療計画の作成、検証に一定の時間がかかるため、すでに神経症状を生じているなど急を要する症例には適応できませんが、一定の予後が見込める症例に対しては積極的に定位照射を行っています。

● 放射線内用療法

ラジウムはカルシウムと同じアルカリ土類金属であり、生体内ではカルシウムに類似の挙動をとり骨代謝亢進部位に集積する性質があります。ラジウム-223は物理的半減期11.4日で壊変し最終的に安定同位体である鉛-207に至りますが、この過程で放出される放射線はほとんどがアルファ線であるため、ラジウム集積部位のごく近傍にのみ殺細胞効果を及ぼします。有害事象を避けつつ骨転移に対して高い治療効果を得られる薬剤ですが、現時点では適応が「骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌」に限られています。当科では泌尿器科とも協力し骨転移への内用療法に積極的に取り組んでいます。

● 腔内照射時の疼痛緩和

婦人科がんの腔内照射は子宮・膣内にアプリケータを挿入し体の内側から放射線を照射する手法で、婦人科がんの治療では欠かせないものです。日本では多くの施設で鎮痛剤の投与下で行われていますが、患者さんによっては器具の挿入による疼痛は耐え難く治療の妨げとなっています。当院では麻酔科の支援により鎮静下に器具を挿入する体制を整えました。患者さんの意向も確認しながら、苦痛を減らし安心して治療を受けていただけるよう努めています。

小線源治療装置やリニアックの機器更新は今後も着実に進めていく必要がありますが、治療環境に大きな変更がなくとも放射線治療の成績向上のためにできることはまだまだあるように考えます。当科では引き続き治療法の改善に取り組んでいきます。今後ともよろしくお願いいたします。

「薬剤科」のご紹介

薬剤科は、薬剤師38名で24時間勤務体制（夜間・休診日は宿・日直体制）を敷いています。

調剤、病棟活動、チーム医療、製剤、医薬品の供給・管理、TPN（中心静脈栄養無菌調製）、外来化学療法センター業務（抗悪性腫瘍剤の調製と説明）、薬剤師外来、手術センター薬剤管理業務、入退院支援業務、医薬品情報等の多岐に渡る業務を行っています。その中で特に推し進めている地域連携についての取り組みを紹介します。

✓ 入退院支援業務

予定入院患者さん（現在の対象：手術予定、生検予定、内視鏡検査予定、休日入院）の服用中の薬剤の内容を、お薬手帳や説明書などから、時には保険薬局や処方医療機関に問い合わせ持参薬報告書を作成し主治医にフィードバックしています。特に術前などに抗血小板薬等の休薬が必要な薬剤を確認した際、必要に応じて主治医と相談し患者さんに休薬を説明しています。また、錠剤が一包化されている場合など、患者さんでは中止薬が判断できない場合は、保険薬局に抜薬再分包の依頼と患者さんへの説明をお願いするなどし、安全な入院治療に繋がっています。

2020年度合計	2,862件
月平均	約239件



患者支援センターの患者対応ブース



✓ がん患者における地域連携

● 外来化学療法センター

外来化学療法センターで注射抗がん剤の治療をされている患者さんを対象として、治療内容（レジメン、投与量など）の説明や、抗がん剤による副作用の発現状況等を確認しています。またこれらの内容を記載した情報シールをお薬手帳に貼付し、地域の保険薬局との連携強化に努め、外来化学療法の継続を支援しています。

2020年度合計	5,067件
月平均	約422件

また、院外処方箋が発行された場合は、薬剤師が保険薬局に処方せんをFAXすることで、点滴時間を利用した調剤が可能となり、薬局での患者さんの待ち時間短縮に繋がっています。



外来化学療法センター

●薬剤師外来（がん薬物療法編）

特定の内服抗がん剤を服用されている外来患者さんに対しても治療内容の説明や副作用の確認を行い、服薬アドヒアランス向上と継続治療の支援に努めています。

2020年度合計	58件
月平均	約5件



薬剤師外来

✓研修会

●地域医療連携薬剤業務研修会

京都府下の保険薬局薬剤師と病院薬剤師を対象に、年2回、京都府薬剤師会共催のもと各疾患の標準治療や最新の知見などについての研修会を開催しています。なお、当院はがん診療連携拠点病院であり、うち1回をがん関連の研修会としています。

●地域医薬品研修会

2ヶ月に1回近隣の保険薬局を対象に新薬の研修会を実施しています。

✓薬物療法に関する情報共有

薬物療法の適正化、安全性の向上を目的として、保険薬局からのトレーシングレポート（服薬情報提供書）を受付けています。特に抗がん剤については、緊急性を要さない服薬状況や副作用などの報告、処方提案としてフォローアップシートを活用しています。

提供いただいた情報は、薬剤科で確認、集約を行い、処方医師へ情報伝達をしています。特に早急な対応が必要な事例については電話等で医師に報告、相談し、その結果を保険薬局にフィードバックしています。

2020年度	トレーシングレポート	フォローアップシート
合計	265件	94件
月平均	約22件	約8件

トレーシングレポート

フォローアップシート